

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	京都市児童療育センター「きらきら園」	公表日	2026年 3月 30日
------	--------------------	-----	--------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な広さがあり、遊び空間と生活空間が区別されている。</li> <li>・グループの人数、特性またはその時の状況に応じて部屋の設定を変更をして療育を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動が複数の部屋に渡ることもあるため、準備や片付けも含め時間がかかることもあり、整理が必要。</li> <li>・年度途中の入園もあり、人数が増えた場合に部屋が狭くなるがあった。不適切にならないように対応する。</li> </ul>
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国基準の約2倍配置されている。</li> <li>・職員が休みの時などにグループに他の職員が応援が入ったり、困った時に助けあえる環境がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度途中からの入園もあるため、グループによっては職員体制が厳しくなってしまったことがあった。子どもさんの状態に対応することが必要なので、園全体で、無理のないように調整する。</li> <li>・個別な対応が必要な場合に、すぐに駆けつけられる職員の配置も必要。</li> </ul>
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示物等が少なく、収納も多いので、視覚的にすっきりとしている。対象児に合わせて、マークや名前などでわかりやすく示している。</li> <li>・全体的に動きやすいよう空間を整備している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋のトイレに個室がない、保育室から見やすい、部屋が広すぎてどこで何をしたらいいのかわかりにくい、壁で完全に仕切られていない部屋があり声や音が混じって聞こえる等の課題が上がった。工夫して使用しているが、今後改装等を検討したい。</li> <li>・建物の構造上、身障者トイレがなくバリアフリーになっていない（必要な場合は同建物内の隣の事業所のバリアフリートイレの使用をお願いすることになる）。改善が必要。</li> </ul>
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物や遊具の劣化はあるが、清掃は丁寧に取り組んでいる。</li> <li>・美化委員が普段気が付かない場所の掃除を提示して綺麗に保っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に合わせた空間作りは常に意識はしているが、物がつめこまれていたり整理が出来ていない状態の時がある。</li> <li>・古い建物なので掃除を怠るとすぐに汚れていくと思われるため、掃除の時間を確保するタイムスケジュールが必要。一方で掃除以外にも時間が必要なので、工夫が必要。</li> </ul>
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋のトイレには個室がないが、必要に応じて個別対応をしている。</li> <li>・部屋の調整を事前に行なっていて、状況に合わせた対応をできやすくしている。</li> <li>・部屋に入室しにくい子どもさんには廊下で安心して過ごし、そこから部屋に誘ってみたりと、無理なく過ごせるように配慮している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別に対応する場所や職員が足りない場合がある。状況によって対応できるようにする。</li> </ul>
	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りをする時間を決めて実施している。</li> <li>・療育終了後に振り返りの時間をとるために、職員同士が声を掛け合って片付けや記録の役割を決めて工夫をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りはしており、問題意識もあるが、具体的な目標設定と実施の徹底ができるとう良い。</li> <li>・役職問わず、意見交換の場があると、より良く共有ができるのではと感じる。</li> <li>・業務改善するPDCAサイクルを確立が弱いいため、改善していく。</li> </ul>
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当の職員から情報を共有する場があるので、分かりやすい。</li> <li>・日々、会議等でも挙げられている。</li> <li>・アンケート結果を掲示し全職員が見られるようにしていたり、課題として全体に話したりするので、改善に繋がっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善までに長期間かかっている内容のものが、改善が必要。</li> </ul>

業務改善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議などで把握につとめている。</li> <li>・意見をだす場を設けていて、改善策が出た時には一度試してみても今後の改善につなげている。</li> </ul>	把握するだけでその後の改善ができていないことが多い。業務改善につながるまで取り組む。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		昨年度から、市内のセンター同士で評価するようになった。情報を共有する場を設けているので、分かりやすい。	第三者評価を受けてから年月が経過している。(令和2年)、法人全体で調整が必要な再度受けることを計画する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修委員会がアンケートを実施して内部研修を企画している。今年から保育士のスキルアップ研修を毎月しているが、新しい視点での学びが広がり有効だった。</li> <li>・今年度は初めて、職員が他の療育施設の見学に行き、報告会を設けた。毎年資質向上について考え実施している。</li> </ul>	機会はあるが、外部の研修は業務を抜けて受講するのが難しいことも多い。年間予定を立てて計画的に受講する。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学時に説明している。</li> <li>・園内掲示やHPに掲載している。</li> </ul>	支援プログラムについて、日常的に振り返る機会も持つ。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			職員同士で会議をしているが、ニーズ課題の整理に時間がかかり、もっと時間が欲しいことがある。フォーマルなアセスメントツールは部分的に実施しているので、全員に実施できるようにし、情報を共有して話し合いが持てるように改善する。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの願いの聴き取りを意識している。</li> <li>・原案チェックをグループの職員がおこなひ、全体で目を通すことが出来ている。</li> <li>・グループの職員みんなで、子どもについて話す時間があり、共通理解ができています。</li> </ul>	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		療育前の打ち合わせ、療育後の振り返りで話が出来る。	より意識して共有ができるように取り組む。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準化されたツールは全員には実施できていない。今後導入を検討する。</li> <li>・STの検査、各種評価や園内の発達検査を実施しているが、日々の行動観察にもアセスメントがもう少し活用されるようにする。</li> </ul>
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの会議時間の確保を意識している。</li> <li>・振り返りで次回の活動を話し合っていることで、事前に準備がしやすい。</li> </ul>	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々意見を出し合っている。</li> <li>・年間のプログラムを作っていることもあり、固定化されていないように思う。</li> </ul>	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		意見を出し合い、進めている。	個別でも集団でもどちらでも対応できるようにする。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		目標を皆で確認をし合っているため、皆で同じ方向に向いているなど感じる。	原則行っているが、個別療育の場合には、担当者だけで準備をしているため、個別担当者会議の実施など改善が必要。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		振り返りは必ず行っている。今年度から保育士のアドバイザーの先生にも見てもらうことで取り組みのアドバイスをもらうこともできる。	・個別療育の場合には、担当者だけで振り返りながら記録をして、次回につながるようにしているが、個別担当者の会議を持ち、担当者間で共有できるようにしたい。 ・打ち合わせと振り返りは実施しているが、もう少しゆとりのあるスケジュールを目指す。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		療育後、先に職員1人が記録を入力し始めることで、全員の記録がかけられるように工夫している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて、実施している。	保険医療、教育などの関係機関との連携は弱い。実施する。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		訪問をしたり、来園してもらったり、電話連携を取ったりしている。	併行利用の方がほとんどだが、インクルージョンの観点は弱いと感じるため、強化していく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・年長児の引継シートを作成している。 ・引き継ぎシートを使うことで、子どものことをよりわかりやすく伝えている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		体制強化事業として訪問したり、事業所の職員の実習を受け入れたりしている。	業務に掛かる時間が多いため、計画的に実施する。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○			・あまり多くはできていないため、計画的に取り組む。 ・業務内に行うものもあるが、多くは業務時間外に自主的に参加している。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		・きらきらパークでは交流が見られる。 ・もっと他の園との交流を深めたい。

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者グループを行っている。研修案内を案内板に掲示している。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		入園面談の際に時間をとって丁寧に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		すぐに答えられないことは、一度グループに持ち帰り検討してから返すようにしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分とは言えないが、取り組みを始めている。</li> <li>・季節ごとのイベントでは各ご家族が交流を楽しみにされていると思う。</li> <li>・夏休みにきょうだいが保護者と遊べる遊び場を用意したり、数組のきょうだいが一緒に遊べる部屋を用意した。</li> <li>・今年度は年長のきょうだい児が集まる機会があり、楽しく遊べたようで、また新しい繋がりができたようで良かった。</li> </ul>	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページやブログを活用している。	今年度力を入れて取り組んではいるが、頻度は少ないため、改善する。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・きらきらパークへの参加を広く呼びかけている点。</li> <li>・龍谷大学の学生の地域活性化の取り組みに協力した。</li> </ul>	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			マニュアルはあるが、訓練までできていないものもあるため、実施する。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期的に避難訓練を行なっている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各会議の中で情報の共有、対応について話しあう場を設けている。</li> <li>・入園時に聞き取りを行なっている。</li> </ul>	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝、職員全員でアレルギーのある児童の確認をしている。半年に一度、変更がないかを確認している。</li> <li>・お盆の色を変えて提供しているのでわかりやすい。</li> </ul>	

非常時等の対応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		昼礼、終礼などで共有している	検討しているが、全体での共有が不十分な場合があり、再発防止に取り組む。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		必ず虐待防止の研修を行なっている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			該当しない場合が多い。また、契約時に身体拘束についての説明はされているが、計画書への記載はない。職員間で研修を実施し、身体拘束に当たる行為かどうかを再認識する必要がある。